

森口良樹 令和6年1月度特別作品

上州の秋を行く 森口良樹

学生時代に日本一周をしたのは、いまから五十数年前のこと。東京を出発し、仙台の七夕、平泉、青森の奥入瀬、青函連絡船で函館、襟裳岬、網走を経て宗谷岬、小樽と道内を一周し、秋田、金沢、大坂万博、淡路島、四国桂浜を抜け、佐多岬から九州一周へ、国道二号、一子を駆け抜けて一か月半で全国を回った。途中の大まかな名所は事前に調べて回ったが、関東の日光へは、いつでも行けると當時は思っていた。結局、卒業するまで一度も足を運ばず、故郷に就職した。いつか日光東照宮に参拝したいと思っていたが、思いがけず、妻から紅葉の日光へ行つてみないかと持ち掛けられて、二つ返事で了承した。地元空港の秋のツアーで待望の日光に旅行だ。上州路を巡った紅葉の旅は格別な数日であった。

塔乗券握る夫婦に秋日和

湯めぐりに会ふ龍田姫浅間山

秋閑くるガイド行き交ふ東照宮

秋澄むや鳴き龍睨む輪王寺

半眼に見下ろす阿弥陀秋深し

昼食のツアーの膳に茸飯

湯畑に人影絶えぬ夜半の秋

後の月だらだら坂に湯もみ見て

秋の朝森林浴へ宿を出づ

秋惜しむ一路羽田へツアーバス

《作品鑑賞》

暁子

十句を通して旅の楽しさ、錦秋の豊かさが溢れていますが。紅葉の季節、日光や上州にご夫婦でのツアー旅、羨ましい限りです。

塔乗券握る夫婦に秋日和

「塔乗券握る」がこれから始まる旅への期待と高揚感を表現し、秋日和とよく呼応しています。

湯めぐりに会ふ龍田姫浅間山

龍田姫は紅葉に関わる女神とか、湯上りの目に浅間山の女神はさぞかし美しかったことでしょう。龍田姫は一度使ってみたい季語です。

半眼に見下ろす阿弥陀秋深し

半眼の阿弥陀仏に秋深しの季語は巧みで、荘厳で静寂な感じがよく伝わってきます。

後の月だらだら坂に湯もみ見て

湯もみを見た後、そぞろ歩きに見上げれば後の月が煌煌と美しく、この上なく充足した旅であったことが伺えます。前文にある森口さんの青春は私の遠い日と重なり懐かしく拝読しました。